



# 豪雨災害はすぐそこに！



平成12年の東海豪雨の様子

動画はこちら



河川の氾濫やがけ崩れなどの大規模な災害が発生し、200人を超える尊い命が犠牲となった「平成30年7月豪雨」。豪雨災害は決して他人事ではありません。豊田市においても、昭和47年7月豪雨、平成12年の東海豪雨など、豪雨による浸水害や土砂災害が発生しています。災害から生命を守るため、できる備えからすぐに始めましょう。

## STEP 01

### 自宅周辺に潜む危険を事前に確認しましょう！

「洪水ハザードマップ」や「とよたiマップ」、地域で作成した「防災マップ」などを用いて、住んでいる地域の浸水想定や危険箇所、避難場所を確認しておきましょう！

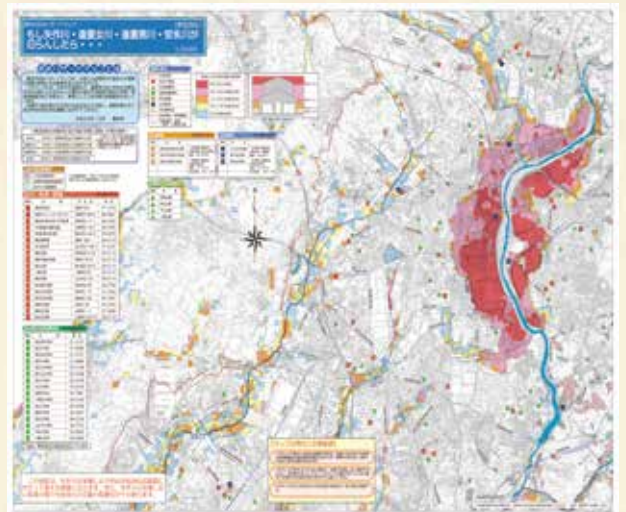
#### 「洪水ハザードマップ」

大雨による河川の氾濫などの災害から皆さんが避難する際の参考となる情報をまとめたものです。浸水する範囲や深さの予想、緊急避難場所などを表示しています。

##### マップの見方と注意事項

浸水の範囲や深さは、計算により得られたものです。水に浸かる深さが色分けで示されています。

自宅に近い河川が氾濫した場合に浸水が想定される場所や、東海豪雨時の浸水実績の有無を確認し、自主避難の参考にしてください。



#### 「とよたiマップ」

パソコンやスマートフォンで使用することができます。豊田市の地図上に、浸水想定や震度想定、緊急避難場所など災害に関する様々な情報を表示することができます。



スマートフォンサイトはこちら



「防災マップ」を表示させ、画面右上のメニュー内の「レイヤー表示切替」で浸水想定区域などが選択できます。

STEP  
02

## 正確な情報入手しましょう！

市では、避難情報などの緊急情報を、テレビやラジオのほか、緊急メールとよた、防災行政無線、防災ラジオなど様々な手段を用いて市民の皆さんへお伝えしています。市からの情報を入手できる手段を確保しておきましょう！

## ! 避難情報を理解しましょう

区分と発令時の行動	<b>避難準備・高齢者等避難開始</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>いつでも避難ができるよう準備を開始する。</li> <li>高齢者などの避難に時間を要する人は避難を開始する。</li> </ul>	緊急度 ↓
	<b>避難勧告</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所へ避難を開始する。</li> <li>避難が難しいときは、近隣か屋内の安全な場所(高層階<sup>など</sup>)へ避難するなど、速やかに命を守る行動をとる。</li> </ul>	
	<b>避難指示(緊急)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>直ちに避難を完了する。</li> <li>避難が難しいときは、近隣か屋内の安全な場所(高層階<sup>など</sup>)へ避難するなど、速やかに命を守る行動をとる。</li> </ul>	

危険な気象状況が予想される場合は、**3つの区分で避難情報を発令します**。各避難情報に応じて安全の確保に努めてください。

避難のために必要な情報収集を行うために、以下の**市からの情報発信**を有効に利用してください。

## ! 複数の手段で情報を取得できるようにしましょう

上記避難情報の発令は右の各媒体で行います。**緊急メールとよた**や**Yahoo!防災速報**などの通知型媒体は情報が更新された際にリアルタイムで通知を受け取ることができます。

テレビやホームページによる情報取得に併せて利用するのが効果的です。

## 防災行政無線

緊急メールとよた(登録制)

緊急速報・エリアメール(登録不要)

Yahoo!防災速報(スマートフォン向けアプリ)

豊田市防災ラジオ

豊田市ホームページ

CATV(ひまわりネットワーク)

コミュニティFM(ラジオ・ラビート 78.6MHz)

そのほかテレビやラジオのニュース

## 緊急メールとよた



## Yahoo!防災速報



iPhone版



Android版

STEP  
03

## 適切な避難判断と迅速な行動を！

様々な手段で積極的に情報収集を行い、気象状況や周囲の状況をしっかりと見極めた上で避難の可否を判断します。避難を決めたら速やかに行動することが重要です！

- 1 非常持出品を持って避難を！(最小限の必需品をあらかじめ準備しておきましょう！)
- 2 隣近所で声をかけ合い、助け合いながら避難を！
- 3 増水した川や崖の近くなど、危険な場所には絶対近づかない！
- 4 避難場所への避難が間に合わないときは、近くの頑丈な建物のなるべく高いところへ！

災害時の救護体制について本紙6ページに掲載していますのでご覧ください。